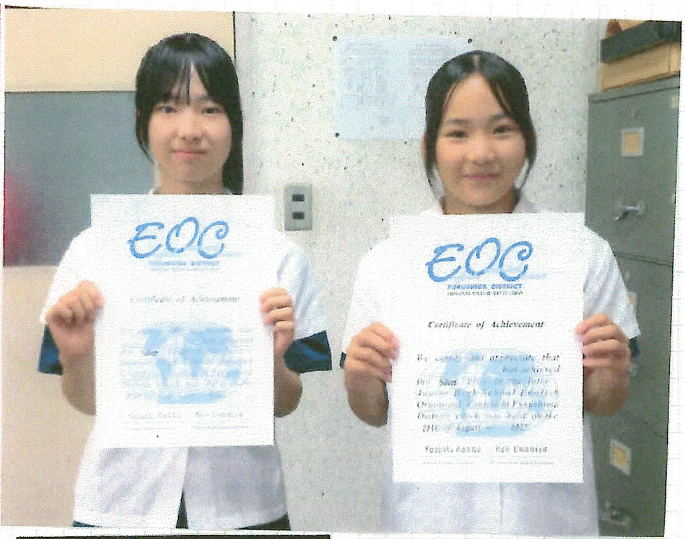
日に新た

（題字は三年一組 高橋莉翔さんです。）

第二十四号
大島中学校
学校だより
令和七年八月二十九日

よく頑張ったネ!! 良かったヨ!!

去る八月二十七日(水)、福島地区英語弁論大会が行われました。本校からは、「創作の部」に三年粟地暖さん、「暗唱の部」には、二年小野さくらさんが出場しました。二人とも英語弁論大会に自ら立候補し、夏休み中に練習を重ね、当日を迎えました。福島地区すべての中学校が出場した大会でしたが、二人とも練習の成果を発揮すべくすばらしい発表を行いました。粟地さんは、「二回目の出場でした。今回は日本語を英訳するのが大変でしたが、とてもよい経験になりました。」と感想を述べてくれました。



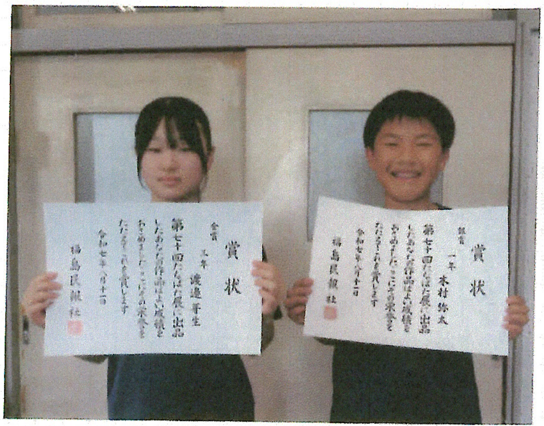
小野さくらさん

粟地　暖さん

熱中症予防と感染症対策を十分に！

。十分な睡眠。十分な栄養摂取
。手洗い・うがいの励行

おめでとう!!「たなばた展」



金賞 3年渡邉芽生さん　銀賞1年木村弥太さん

おめでとう!!「はがきに綴る中学生平和へのメッセージ」

メッセージ部門
佳作3年粟地暖さん

イラスト部門
努力賞3年吉田雪菜さん

心の解放感

スクールカウンセラー
菅原理恵

「見守る」ってどうすればいいの？③～「大人扱い」と「子ども扱い」の絶妙なバランス～

保護者のみなさま

前回は、お子さんを温かく見守るためのコツとして「話を聞くこと」についてお話しました。今回は「大人扱いと子ども扱いのバランス」についてお話します。

思春期のお子さんとのかかわりで、もう一つ大切なのが「大人扱い」と「子ども扱い」のバランスです。この時期は、自立したい気持ちと、まだ親に甘えたい気持ちの間で揺れ動いています。その揺らぎを理解し、状況に応じて接し方を変えることがとても大切です。

「大人扱い」で自己決定を尊重しましょう。お子さん自身で決めたいという気持ちが強くなる時期です。できることや任せられることは、少しずつお子さんに委ねてみてはどうでしょうか。たとえば、休日の過ごし方、持ち物の管理、自分の部屋の整理整頓など、お子さんの意見を聞き、自分で選択する機会を与えてみてください。自分で決めたことは、責任感や自信を育む大切な経験になります。たとえ失敗したとしても、そこから学ぶことができます。

「大人扱い」をする一方で「子ども扱い」で安心感を与えることも大事です。思春期のお子さんはまだまだ未熟な面も多く、親のサポートが必要な場面もたくさんあります。危険なこと、社会のルール、健康に関わることなど、親として毅然とした態度で伝えるべきことはしっかりと伝えましょう。また、疲れている時や困っている時には、そっと寄り添い、甘えさせてあげる「子ども扱い」も必要です。時には、幼い頃のように頭をなでたり、抱きしめたりするスキンシップもお子さんに安心感を与えます。

このバランスは一筋縄ではいきません。お子さんの成長段階やその日の様子に合わせて、柔軟に接し方を変えてみてください。お子さんの「今」をよく観察し、「今はどこまで任せられるかな？」「今はどんなサポートが必要かな？」と考えてみることが大切です。「お子さんをよく見ること」がキーポイントです。